

# 東芝再生 多難の船出

## 綱川氏、新社長に昇格

不正会計問題からの再生をめざす東芝は6日、室町正志社長の後任に綱川智副社長(60)が昇格し、空席の会長職に志賀重範副社長(62)が就く人事を発表した。不採算事業の整理などに一定のめどをつけたとして「新生東芝」をめざすが、課題は多い。

する不透明な人事が横行したと言われる過去との決別を印象づけたいと思惑がにじんだ。

人事はいずれも6月下旬の株主総会後の取締役会で正式に決まる。室町社長は特別顧問に就くという。「新しい指導体制で『新生東芝』に移りたい」。東芝本社での記者会見で、人

小林氏によると、指名委員は昨年9月の発足から11回開き、8回は室町氏の後任を議論した。社外候補も考えたが、「社内をよく知る人から選ぶ方が新生東芝を成長させる」と内部昇格に絞ったという。小林氏は、綱川氏について



綱川 智氏(つなかわ・さとし) 東大教養卒、79年東芝に入り、15年9月から副社長、60歳。

て、医療機器事業を成長させた功績や、室町社長のもとで再建計画をまとめた手腕を評価。小林氏は「スピード感と構想力、これらを備えた綱川氏がリーダーとして最適だ」と述べた。会長に就く志賀氏は主に原子力畑を歩み、米原発子会社ウエスチングハウス

(WH)会長も務めた。今は社外活動で信頼回復をめざす役割を担う。東芝は昨年11月、WHの過去の損失をルール通り開示しなかったとして東京証券取引所から注意された。東芝の役員責任調査委員会は志賀氏が不正会計に関係していたとも指摘しているが、小林氏は「グレー」と思われるかもしれないが、強い東芝になるには余人をもって代えがたい。そちらを重く見た」と説明した。

## 財務の健全化必須

東芝の2016年3月期は、4700億円の純損失という過去最大の赤字を見

込む。綱川、志賀両氏に課せられた役割は、17年3月期以降の「V字回復」だ

## 3事業注力 ■ 信頼の回復急務

記者会見での主なやりとりは次の通り。

綱川智氏 財務体質の強化だ。エネルギー、社会インフラ、半導体の3事業に注力し、しっかりと成長していきたい。志賀重範氏 信頼とブランドイメージをどう回復するかにつきる。

### 会見 主なやりとり

広範囲な不正会計はなぜ起きたかと思いつか？

小林氏 社外も大きな選択肢だったが、これだけ財務が急激にいたみ長期的戦略が求められるなか、東芝をよく知っている人から選んだ。IoT(モノのインターネット)など、領域が広がって深い産業を引っ張る必要がある。石坂泰三さんや土光敏夫さんを社外から招いた時代とは違う。

綱川氏 コストを削減し、数量も絞った。自力再生の道を進めているが、再編も含めあらゆる可能性を検討している。

(鈴木友里子、西尾邦明)



会見する(左から)東芝の綱川智氏、志賀重範氏、室町正志氏=6日午後5時11分、東京都港区、恵原弘太郎撮影

志賀重範氏 信頼とブランドイメージをどう回復するかにつきる。

小林喜光氏(指名委員会委員長) 第三者委の結論を踏襲した。基本的にホワイトと考えている。

綱川氏 コストを削減し、数量も絞った。自力再生の道を進めているが、再編も含めあらゆる可能性を検討している。

東芝は今回の不正会計問題で、東京証券取引所から昨年9月に「特設注意市場銘柄」に指定され、市場から資金を獲得する道を事実上、閉ざされている。今年9月に解除に向けた審査を受けるため、再発防止策を詰める作業が残っている。

原子力発電事業は、米原発子会社WHをめぐる約2600億円の損失処理を16年3月期に済ませ、会計上の懸念材料の一つを片付けた。だが、今後、WHが米国やインドなどで計64基の受注・建設をめざすという計画が、思惑通り進むかは不透明だ。

複数部門で利益をこまかく不正会計がはびこった企業風土の刷新も問われる。